

団体名：奥州農村ワーキングホリデー研究会

様式第5号（事務取扱関係）

市民提案型協働支援事業実績書

補助金コース	チャレンジコース	
事業の名称	「農山村再生セミナー」の開催	
事業の成果	農村ワーキングホリデーによる影響を検証し、活動の啓発と農山村再生を考える機会にと、5回目を迎えた「農山村再生セミナー」基調講演、パネルディスカッション（トークセッション）には一般、会員45名、学生5名、講師、関係者6名。ワークショップには37名と予想を上回る参加者と好反響を頂き充分成果は得られた。	
事業の実施状況	実施期間	平成28年12月6日～29年2月27日
	実施場所	市民プラザマッセ 多目的ホール
	実施内容	平成29年2月27日「農山村再生セミナー」開催 ①基調講演 「地域と大学の連携を考える」 和歌山大学食農総合研究所 准教授 岸上光克氏 「域学連携型農村ワーキングホリデーによる農家と学生の変化」 和歌山大学大学院観光学研究科博士1 藤井 至 氏 ②パネルディスカッション（トークセッション） ③ワークショップ ④情報交換会（交流会）
事業実施における役割分担	提案者が担った役割	セミナーの企画、実施、運営
	市が担った役割	後援、広報等への事業告知、会場垂れ幕、横断幕の作成
	その他の団体が担った役割	
事業の見通し	交流型農業による農村活性化に向けて、継続を力にセミナー開催を今後も続けたい。	
今後の課題	今回は、アプローチが悪かった事もあって行政関係者の参加が少なく、地元農高生、農大生、県立大生の参加が無かった事が残念でした。地域と大学の連携に加え、行政を巻き込んでの官学民の協働が課題。行政との望ましい関係の模索が更なる事業発展に繋がると思う。	

備考

- 1 事業の成果、事業の実施状況、事業の見通し及び今後の課題は、詳細に記入すること。
- 2 事業実施に関する成果品、写真その他の参考資料を添付すること。

様式第2号 (事務取扱関係)

市民提案型協働支援事業収支予算 (決算) 書

1 収 入

(単位:円)

項 目	予算額	決算額 (変更予算額)	増減額	説 明
補助金	100,000	100,000	0	市民提案型協働支援事業補助金
自己資金	10,000	16,022	6,022	会より
事業収入	20,000	9,000	△11,000	参加費 (資料代) 一般参加者 200×45
合 計	130,000	125,022	△4,978	

2 支 出

項 目	予算額	決算額 (変更予算額)	増減額	説 明
報償費	30,000	70,000	40,000	講師謝礼 (藤井至氏へ)
旅 費	85,000	36,700	△48,300	講師交通費 (ホテル代込みパック) 大阪伊丹空港～花巻空港往復航空券
消耗品費	15,000	11,844	△3,156	コピー代 640 文具 2,160 プリンターインク 9,044
通信費	0	6,478	6,478	郵便切手代 会員、関係機関への案内等
合 計	130,000	125,022	△4,978	